

平成26年度畜産業振興事業の執行状況

(単位:百万円)

区分	予算額	実績額	予算 繰越額	不用額 (又は27年度 以降に執行)	不用の主な要因
畜産業振興事業 (うち執行残額が大きい事業)	159,771	90,779	29,007	39,985	
1 肉用牛繁殖経営支援事業	15,877	113		15,764	黒毛和種等の肉専用種の子牛価格が高値で推移し、平均売買価格が交付金発動の基準価格を下回ることが無く、一部の品種を除いて交付金を交付する必要が無かったため。
2 肉用牛肥育経営安定特別対策事業	86,799	47,978	13,919	24,903	26年度の事業登録頭数が計画を下回ったこと等により、事業登録頭数に応じて補填金の財源とする基金の造成額が少なくて済んだため。
3 養豚経営安定対策事業	9,881	0		9,881	豚枝肉価格が高値で推移し、平均粗収益が平均生産費を下回ることが無く、補填金を交付する必要が無かったため。
4 肉用牛経営安定対策補完事業	3,441	2,279		1,162	黒毛和種等の肉専用種の子牛価格が高値で推移し、繁殖雌牛を増頭するための子牛導入計画を下回ったため。
5 食肉流通改善合理化支援事業	3,336	1,648		1,688	中小食肉卸売事業者に対する民間融資の円滑化を図るための債務保証を受けている事業者で、代位弁済を必要とする事案が少なかったため。
6 畜産特別支援資金融通事業	2,631	1,445		1,186	畜産特別資金の貸付が少なかったことにより利子補給額が少なくて済んだため。また、代位弁済を必要とする事案が少なかったため。
7 畜産副産物適正処分等推進事業	6,827	5,750		1,077	牛と畜頭数が前年度を下回ったことにより、適正に管理すべき牛せき柱等の対象数量が計画を下回った等のため。
8 原子力発電所事故被災者稲わら等緊急供給支援対策事業	1,444	138		1,306	牧草地や飼料畑の除染が進み、代替飼料の需要が減少するとともに、本事業を活用せず東京電力(株)に賠償請求をすることができるようになったため。(本事業は、東京電力の賠償が速やかに実施されないことから、緊急的に措置したものであり、生産者団体と東京電力の間で賠償に係る調整が一定程度進んだことにより、賠償請求が進展した。)なお、本事業は平成26年6月末をもって終了した。
9 飼料穀物備蓄対策事業	4,845	2,310		2,535	飼料穀物の買入れ経費が予算額を下回ったため。なお、不用額は事業実施期間を1年延長して使用。
10 飼料自給力強化支援事業	12,700	5,801		6,899	公共牧場等機能向上支援事業では、公共牧場等における既存放牧施設の機能向上を図るための整備等について要望額が予算額を下回ったため。

注1: 補助金ベース。事業毎の予算額は当初予算額

注2: 「不用額の大きい事業」は不用額5億円以上で整理

注3: 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の予算繰越額(13,919百万円)については、26年度第4四半期分に係るものであり、27年度に執行される見込みである。